

「本部」反動分子の最近の言動録。

日刊 動労千葉

81.5.7
No. 733

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五ノ六・公衆電話(22)七二〇七

国労と徹底対決する…… ——革マル鳩田誠——

「動労千葉支援基金」運動が千葉県下はもとより全国に大きく燃えひろがっているなかで、四月二五日、動労千葉全国オルグ団が意気高く結成された。そして現在、東へ西へ北へと動労千葉全国オルグ団は、「処分粉碎・支援基金拡大・三里塚二期工事阻止・動労大改革」を合言葉にうってでている。

この運動の前進と反比例して動労「本部」反動分子の運動は日々ちよろ落の度を深めてその反労働者の本性をさらけだしている。本号では、この腐り切った「本部」反動分子の実態と言動録を明らかにしよう。

「4・17」俺は指揮はしたが、手を下していないから下手人ではない — 神保 —

最も反労働者的であり卑劣漢は、三信ビル(「動労千葉事務所」) 指導部 4・17津田沼襲撃の指揮者、革マル分子神保某なる者である。

4・17津田沼襲撃 片岡津田沼支部長への頭がい骨骨折という殺人的テロを直接振った神保某は、三信ビル開設以来、一貫して動労千葉破壊攻撃を陰で指揮してきたのである。しかし、昨今の目に余る「本部」反動分子によるセクト的指導が拒否され、動労千葉破壊のための動員者が激減してしまっている。

こうした状況の中で神保某は、「4・17を動労千葉は忘れたらう」と勝手に思いこみ、四月二日佐倉支部春闘破壊のために直接指揮者として「登場」してきたのである。だが神保某の思惑とは逆に動労千葉組合員の怒りの糾弾にさらされたことはいうまでもない。

顔面蒼白になって当局に保護された神保某は、気を動転させて「4・17は指揮したが、直接手を下していないから下手人ではない」と思わず、4・17津田沼襲撃の責任者であることを自認したのである。

しかも、あまりにも4・17が反労働者的反組合的行為であることを知るがゆえに神保某は、動労千葉組合員の「4・17が組合運動として正しいのか」との問に終始答えることができず、うつむいて黙りこんでいたのである

俺は革マルと言われようと
国労と徹底対決する — 鳩田誠 —

前述した神保某と勝るとも劣らぬ反労働者的卑劣漢は、津田沼潜入革マル分子・鳩田誠である。

鳩田誠は、国鉄入社以来、東洋大卒革マルの歴史を隠して動労千葉の活動をスパイしていたのはすでに周知の事実である。そして革マル隠しのために社青同協会派にもぐりこみ、三年前の国労青年部選挙に「動労組合員」でありながら介入したのもこれまた周知の事実である。

最近の鳩田誠は、「動労千葉支援基金運動」の活動の前進が自らの職場にも波及してきたことに恐怖し、自らとったスト破りをはじめとする反労働者の本性が暴露されることに危機意識にかられついに、国労組合員の自主的な「大量不当処分は同じ労働者として許せない」と決起した動労千葉カンパ活動に敵対を行ったのである。

いわく「あれは不当処分ではない」と言い放ってカンパ活動を妨害したのである。当然のこととして国労・動労千葉組合員から糾弾と謝罪の要求をされたのはいうまでもない。

しかし鳩田誠は、三信ビルのテコ入れによって「謝罪はしない。これからは国労への挑戦と受けとられてもよい。革マルといわれようが国労と徹底対決する」と居直っている。

このように「本部」反動分子は、口先では「春闘再構築のために動・国労共闘」を、等と何度叫ぼうが、職場生産点での闘いは、所詮、闘う労働運動破壊のためには権力・当局と結託し処分攻撃の水先案内人になり、真の国労共闘等全く考えていない反労働者集団であることを自己暴露したといえよう。